

# C-29 身長に対する身体諸測度の変異のアロメトリー

—19・20歳男女について—

お茶の水女大家政 ○大橋真理子 高部啓子 杏林大医 戸沢玖美

目的：従来アロメトリーは、動物の主に成長に伴なう形態変化を把握する手段として用いられてきた。しかし、cross-sectional dataを扱う場合は、むしろ成長段階の等しい集団について、比較する2つの形質の相対的な変異を表わすのに有効な手法と考えられる。

そこで今回は、衣服設計のための基礎として、成長がほぼ停止したと考えられる19・20歳男女を対象に、身長に対する身体諸測度の変異について、アロメトリーの手法を用いて検討することにした。

方法：資料は、1966～67年に工業技術院が行なった「日本人の体格調査資料」のうち、19・20歳男女各1,000例、計2,000例についての身体計測データである。

基準となる項目として身長をとりあげ、これと下肢長、袖丈、背丈、背肩幅、胸囲、腰囲の6項目との関連について検討した。すなわち身長階級毎の各項目の平均値、および各項目の階級毎の身長の平均値をプロットし、これから変移点を読みとって、各相につきアロメトリー式を求めた。

結果：男子では下肢長、女子では袖丈、背丈が単相アロメトリーを示す。背肩幅は男子で4相、女子で3相と複雑な様相を呈する。胸囲、腰囲の周径2項目はいずれも男子で3相、女子では2相を示すと考えられる。